

# 学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共に育・協働で環境学習を推進するモデル校

## 令和7年度 グリーンプラン推進校 活動報告書



認定NPO法人 共育・協働の環境づくり  
**えどがわエコセンター**

## 1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(幼稚園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

### グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等をることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

### 条件

- 対象は江戸川区立の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 実施報告書・会計報告書の提出や報告会への参加をお願いします。
- えどがわエコセンターへの会員登録をお願いします。

## 2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政や環境団体等と連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・脱炭素社会づくりに関するイベント・講座など
- 資源循環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・河川・海岸の保全、東なぎさクリーン作戦など
- 環境教育・人材育成・・・小中学校出前授業、すくすくスクール放課後環境教育  
エコアクション講座、エコカンパニーえどがわの推進など

### 3. 令和7年度グリーンプラン推進校

#### ◆小学校（26校）

小松川小学校 平井小学校 西一之江小学校 西小松川小学校 大杉小学校  
大杉第二小学校 東小松川小学校 船堀小学校 二之江第二小学校 第四葛西小学校  
第五葛西小学校 第六葛西小学校 南葛西第三小学校 新田小学校 清新ふたば小学校  
瑞江小学校 新堀小学校 江戸川小学校 鹿骨松本小学校 鹿骨東小学校 篠崎小学校  
篠崎第二小学校 下小岩小学校 上一色南小学校 南小岩第二小学校 北小岩小学校

#### ◆中学校（6校）

松江第二中学校 松江第五中学校 南葛西中学校 瑞江第二中学校 春江中学校 小岩第五中学校

#### ◆幼稚園（1園）

船堀幼稚園

## 目 次

### 活動報告

小松川小学校	• • •	p. 3	江戸川小学校	• • •	p.37
平井江小学校	• • •	p. 5	鹿骨松本小学校	• • •	p.39
西一之江小学校	• • •	p. 7	鹿骨東小学校	• • •	p.41
西小松川小学校	• • •	p. 9	篠崎小学校	• • •	p.43
大杉小学校	• • •	p. 11	篠崎第二小学校	• • •	p.45
大杉第二小学校	• • •	p. 13	下小岩小学校	• • •	p.47
東小松川小学校	• • •	p. 15	上一色南小学校	• • •	p.49
船堀小学校	• • •	p. 17	南小岩第二小学校	• • •	p.51
二之江第二小学校	• • •	p. 19	北小岩小学校	• • •	p.53
第四葛西小学校	• • •	p. 21	松江第二中学校	• • •	p.55
第五葛西小学校	• • •	p. 23	松江第五中学校	• • •	p.57
第六葛西小学校	• • •	p. 25	南葛西中学校	• • •	p.59
南葛西第三小学校	• • •	p. 27	瑞江第二中学校	• • •	p.61
新田小学校	• • •	p.29	春江中学校	• • •	p.63
清新ふたば小学校	• • •	p.31	小岩第五中学校	• • •	p.65
瑞江小学校	• • •	p.33	船堀幼稚園	• • •	p.67
新堀小学校	• • •	p.35			

学校名	江戸川区立小松川小学校		対象学年と人数	5年生：58名
活動名	日本らしい自然の再生			
指導者	学内指導者：大橋陸人 栃内大和 学外支援者：日本生態系協会 埼玉県生態系保護協会 堂本泰章先生			
1 	2 	3 	4 	5 
6 	7 	8 	9 	
10 	11 	12 	13 	14 
15 	16 	17 		

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・荒川の自然の現状を把握し、環境保全や自然再生のために自分にできることの考え方を深める。
- ・在来生物であるカワラナデシコを育て、移植する活動を通して自然を尊重する態度を養う。

## 成果

- これまで、荒川中流域にある三ツ又ビオトープで長い間保全活動を行い、環境省から自然環境功労者環境大臣表彰をされた菅間宏子先生からたくさんのことを使わってきた。2011年に荒川上流域にある大麻生公園のカワラナデシコの種子を菅間先生からいただき、荒川下流域の小学校の児童たちの活動によって増やしてきた。
- 今年度も埼玉県生態系保護協会のご協力もあり、本校の5年生が、川島町立つばさ小学校、しののめキッズパーク保育園に本校と荒川区立尾久宮前小学校で育てたカワラナデシコの苗と種を渡し、4校でオンラインによる交流会を行った。
- 今年度も本校5年生が荒川中流域の太郎右衛門自然再生地に行き、カワラナデシコを移植した。昨年度の5年生が移植したカワラナデシコの様子も観察し、大きく育ってきたことが確認できた。
- 児童たちは、外来種が生態系に与える事前学習や太郎右衛門自然再生地に生息する日本在来の生物の観察を踏まえ、学んだことを新聞にした。児童の振り返りから、環境保全の大切さを知り、生命尊重の態度の育成につながった。

## 感想・課題等

- 感想：普段、建物に囲まれた環境で生活する児童たちにとって、太郎右衛門自然再生地の環境はとても新鮮だった。児童が自然と関わり、大切にしたいと思う活動ができたので、来年度以降も、カワラナデシコの育て方を学び、育て、移植する活動を継続していくたい。また、前年度までに移植したカワラナデシコが育っている様子を見て、今後も日本らしい自然の再生に深く関わっていきたいと感じた。
- 課題：温暖化等による環境変化の影響から、都内でのカワラナデシコの育成に難しさを感じた。研究を重ね、今の環境に適した育て方を模索する必要がある。

○10月に太郎右衛門自然再生地へ行き、カワラナデシコを移植した時の様子



○太郎右衛門の歴史や今までの自然保護活動の学習の様子



学校名	江戸川区立平井小学校	対象学年と人数	3年生：76名
活動名	花いっぱい運動		
指導者	学内指導者：3年担任 学外支援者：江戸川環境財団		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- クラスごとに花の苗を植え、日々の水やりなどの世話を継続して行うことで、植物の成長や変化に主体的にかかわる経験を積ませる。
- 身近な自然に親しみながら、学校環境を整える意識を高める。
- 学校環境にかかわることで、自分たちの手で学校をよりよくしていこうとする意識を高める。

## 成果

- 10月に各クラスで花の苗植えを行い、子供たちは自分たちで植えた花に愛着をもって活動に取り組むことができた。
- 水やりは班ごと当番制で行い、声をかけ合いながら責任をもって世話をする姿が見られた。
- 花の成長に気付いて喜ぶ様子や、元気に育つよう工夫しようとする姿勢ももち、植物を通して学びを深めることができた。
- 植物を通して学びを深めることができ、継続的な活動の大切さを実感する機会となった。

## 感想・課題等

- 苗植えや水やりなどの継続的な活動を通して、子供たちは「自分たちが育てている」という実感をもち、自然と関わる楽しさや大切を感じていた。
  - 毎日、水やりや観察を積み重ねる中で、植物の命に目を向ける姿や、花が元気に育つことを喜ぶ姿が印象的であった。
  - 小さな活動ではあるが、毎日の積み重ねが花壇の美しさにつながり、学校全体の環境づくりへの意識も高まった。
  - 今後もこうした活動を通して、思いやりの心や主体的に行動する力を育てていきたい。
- 〈課題〉
- 水やりなどの継続的な世話については、意欲的に取り組む一方で、当番への意識に差が見られる場面もあった。
  - より主体的に関わるようにするために、活動の目的や役割を十分に共有する必要がある。

## 活動報告（活動写真）

学校名

江戸川区立平井小学校



学校に、やさしさいっぱいの  
花が咲きますように・・・

学校名	江戸川区立西一之江小学校	対象学年と人数	全学年 610名					
活動名	身近な自然に触れよう 大切にしよう/「エコ」へむけての取組み							
指導者	学内指導者： 校長 五十嵐一嘉 他 全教職員 学外支援者：江戸川区役所緑化推進係、公園ボランティア（4年公園整備）、学校応援団、PTA イクメンジャー（カブトムシの育成）、小松菜農家さん							
1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 
10 	11 	12 	13 	14 	15 	16 	17 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

<b>目 標</b>	○身近な自然に目を向け、自然を大切にしていこうとする気持ちを養う カブトムシの育成・飼育委員会のカメの飼育とプランターづくり／近隣の公園の整備・各学年の花壇活動と栽培（小松菜・へちま・ゴーヤ・米・芋・プランターの植物栽培） ○ごみを区別し再利用・再活用することや節水などで環境にやさしくできるように生活する。ペットボトルキャップの回収をし、ワクチン購入のための資金にしてもらう。
------------	---

<b>成 果</b>	○3年生と飼育委員の児童を中心に、カブトムシの世話をした。年度初めに、学校応援団と共に、カブトムシ小屋の整備を行い、51匹の幼虫が育っていることを確認した。今年度は学級ごとに飼育を行うことになった。カブトムシ小屋から出る糞や腐葉土を肥料として学年の花壇の土や飼育委員の育てるプランター土にすきこんだ。糞や腐葉土は、野菜や花を育てるための大切な肥料として活用できること、自然の様々な事象は循環していることを、活動を通して学ぶことができた。飼育委員はカメの飼育の餌やりを低学年の児童と一緒にを行い、カメ池の清掃やプランターの花の育成を行った。 ○各学年とも、学年花壇で植物を育て、身近な自然に触れることができた。3年生では、小松菜農家を訪ね、小松菜の育て方を学習した。それを生かして、花壇で種をまき育てた。4年生は12月に近隣の公園に出かけ、公園の花壇の花の苗の植替えを行った。近隣に広がる農家に目を向け、地域のボランティアの方と一緒に行動し、地域の自然へも目を向けられた。5年生は、国立極地研究所 アーカイブ室石沢賢二先生をお招きして環境学習を行った。南極の自然や厳しい環境や、日本を含めた世界の気象変動について知り、今取り組むべき課題や地球温暖化防止のために日ごろから取り組めることを考えることができ、身近な自然の大切さに気付くことができた。 ○エコ委員会の児童と用務主事を中心に、ごみの分別の徹底を行った。ダンボールの細かいものはテープなどを取り外して、再生可能な状態にすることを全校で共通理解して行うことができた。ボランティア委員会では、ペットボトルキャップの回収を新たな活動としてはじめることができた。
------------	--

<b>感想・課題等</b>	○学校内の自然から地域の自然環境へ目が向くようになり、大切にしていく気持ちが育った。また、毎年継続している活動については、引き継いでいきたいという気持ちが継続し、持続可能な社会に向けての意識を高めることができた。活動の時期が限定されてきがちであるので、継続できるよう見直していく。夏季の高温化の影響は、動植物にも大きく、現状の環境では維持が難しくなってきた。 ○児童が、ごみの分別や水を大切に使うことなどの日々の取り組みを継続することで、環境にやさしい生活を意識していくことができてきている。更に、児童の中に定着できるよう工夫を重ねていく。また、ボランティア委員会で新たに始まったペットボトルキャップの回収は各学級での活動にも結び付いた。
---------------	--

## 活動報告（活動写真）

学校名

江戸川区立西一之江小学校

カブトムシ小屋の整備：越冬したカブトムシの幼虫をカブトムシ小屋の土の中から掘り出し、飼育のケースに移す作業を行う。その時、カブトムシの糞や土をふるいにかけ糞と土を分けて、肥料になるとこころは、学級花壇に入れ込んで、植物を育てている。



小松菜農家の見学：3年生が小松菜農家を訪ね、ハウスの中の土や農機具の様子を見学し、実際に触って小松菜栽培の実際を知ることができた。



松江公園の苗の植替え：4年生が近隣の松江公園で近隣のボランティアの方や地域の方々と花壇の花の苗の植替えを行った。



5・6年生のボランティア委員会の児童が、ペットボトルキャップの回収を始めた。資源物として回収することで、ワクチン購入に協力できている。



5・6年生のエコ委員会の児童が、清掃時にごみを収集場所に立ち分別の確認をすることやエコパトロール・ポスターの掲示で意識が高まっている。



学校名	西小松川小学校		対象学年と人数	全校児童（444名）				
活動名	自然を大切にするにしこグリーンプラン							
指導者	学内指導者：校長 落合由美子 他全教員 学外支援者：中嶋美南子、越塚弘							
1 人権を尊重する 	2 食べ物を大切に 	3 すべての人に適した環境を 	4 環境に配慮する 	5 リサイクルする 	6 ふるさとを守る 	7 エネルギーを賢く使う 	8 緑を育む 	9 緑を育む 
10 人権を尊重する 	11 食べ物を大切に 	12 すべての人に適した環境を 	13 環境に配慮する 	14 リサイクルする 	15 ふるさとを守る 	16 緑を育む 	17 緑を育む 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・学校に生息する虫（チョウ、テントウ虫など）、生き物（カエルなど）の種類を増やす。
- ・学校の花壇を活用した緑化運動を通して、自然との親しみの機会を増やす。
- ・ペットボトルキャップを集める活動を通して、資源の有効活用やごみの削減について理解する。
- ・各学年の実態に応じた出前授業や校外学習を行い、自然に対する理解を深め、自然を大切にする心を養う。

## 成果

- ・昨年度に引き続き、チョウやテントウ虫が好む植物を植えることで、たくさんの虫が学校に訪れ、児童が休み時間に意欲的に観察し、関わろうとする様子が見られた。
- ・チューリップの球根やパンジーの苗などを外部機関（日本教育弘済会や花と緑の農芸財団）に応募し、5、6年生の美化委員会を中心に植え、学校全体に植物が増え、自然との親しみの機会が増えた。また、各学年の花壇を整備し、様々な野菜を植えたことで緑が増えた。
- ・5、6年生の代表委員会を中心にペットボトルキャップを集める活動を推進した。11月29日現在、約70kgのキャップが集まった。学校全体で資源の有効活用やごみの削減についての理解を深めた。
- ・1年生の「秋を見つけよう」の単元では、外部指導員を呼び、近くの公園に行って、どんぐりや松ぼっくり、落ち葉に触れることで、秋の植物や生き物を身近に感じ、理解を深めた。
- ・3年生の社会科や総合的な学習の時間での学習で、小松菜栽培の学習で、実際に見学することで、野菜の育て方や育てる農家の思いなどを学び、植物に対する理解を深めた。
- ・1月に2年生が南極の氷に関する出前授業、2月に4年生が化石に関する出前授業を行う。そこでも自然に関する理解を深めていく。

## 感想・課題等

- ・学校全体で自然に親しむ環境づくりや授業実践を意識した取り組みを進めたことで、理科だけでなく社会科や総合的な学習の時間など、他教科との横断的な学びの意識が高まった。
- ・自然が減少し、生き物と触れ合う機会が少なくなっている中、自然に関する学びの経験は児童にとって非常に重要であることを再認識した。
- ・休み時間に児童から「たくさんのテントウ虫がいる」「オタマジャクシだ」「緑がいっぱいだ」といった声が聞かれ、自然への関心が高まっている様子が見られた。
- ・外部指導員による出前授業を通じて、普段の生活や授業では得られない専門的な知識や話を聞くことができ、児童の学びの幅が広がった。



学校名	江戸川区立大杉小学校	対象学年と人数	環境委員会・保護者ボランティア 環境財団・学校職員 計30人以上
活動名	大杉小緑化計画第2弾・花いっぱい活動		
指導者	学内指導者： 藤田校長・青木副校長・永井教諭・荒井教諭 学外支援者： 環境財団の方々・有志保護者ボランティア		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

○昨年に引き続き大杉小学校では、農林水産省が「花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと」との「花育」を推進。校庭のあらゆる場所に花を植え、育て、大杉っ子たちを花いっぱいに囲み、穏やかな人間形成を実践する。

## 成果

○昨年に引き続き3人の保護者ボランティアの方、さらにすぐスクールと連携し、環境財団の方々にもご協力いただき、「花いっぱい活動2」をさらに発展させることができた。  
○花を植えて育てるだけでなく、「ハーブ袋作り教室」を保護者に呼び掛け、実施した。  
○子どもたちだけでなく、教職員も「花」への意識が芽生え、子どもたちと一緒に見たり、「今度こんな花を植えてみようか」等の声が挙がったりと、「花育」の意識が芽生え始めた。  
○環境財団の方々の「花の知識」が大杉小学校に受け継がれている。

## 感想・課題等

○この「グリーンプラン」に基づいて活動を呼び掛けたところ、賛同、さらに環境財団とも連携でき「やってみること」が大切であることを改めて感じました昨年度。今年度はさらにミニ大根を植えてみるなど活動の幅が広がり、有意義な活動ができた。  
○この取組をいかに子どもたちの活動につなげていくかが課題だったが、教職員が興味を持ち始めたことで子どもたちにも「花を育てていく」との意識が芽生え、行動につながり始めた。  
●このグリーンプランに基づく活動をいかに継続していくか。そのためには様々な啓発活動を考えて行っていると感じている。

## 【校長先生・環境財団・保護者ボランティアの方々との花植え作業】



## 【学校園にミニ大根を植えました！】



## 【萌芽更新のために伐採しました！】



学校名	大杉第二小学校	対象学年と人数	全校児童 527名
活動名	自然と人と ともに生きる☆杉二小		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター 江戸川区子ども未来館 PTA お掃除し隊ボランティア		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

○学校全体で、SDGs に関わる活動を計画し取り組むことで、地域社会や自然環境に目を向け、地域をよりよくしていこうという気持ちを高めることができる。

## 成果

○各学級で地域の環境をよくするために、どのようなことが取り組めそうかを話し合った。その話し合い活動がきっかけとなり、全学年がそれぞれ、公園や新中川の河川敷などでボランティア清掃を行うことにつながった。今年は、5年生の公園清掃をスタートとして、全学年が学校や地域の清掃をすることができた。地域のごみの多さや日常的に環境に目を向ける大切さを学ぶことができた。(PTA お掃除し隊ボランティアと連携する予定である。)

○えどがわエコセンターの協力のもと、4年生が「緑のカーテン」づくりを行った。理科や総合的な学習の時間を中心に継続して世話や観察活動を行うことができた。

○今年度は、「サツマイモくらぶ」という異学年集団(1~6年生)の栽培グループを編成した。中休みに、土を耕して種をまいたり、水やりを行なったりする活動を担当教員とともに自主的に行なった。(結果として、児童の居場所づくりにもつながった。)

○3年生は、屋上プールに「ヤゴトープ」を作り、4年生のときに「ヤゴ救出作戦」を行うことを継続して行なってきた。今年度は、プールから400匹ほどのヤゴを救出したことから、3・4年生を中心にヤゴからギンヤンマまで育てる飼育活動を充実させることができた。生き物の飼育に関心をもつ児童が増え、自宅に持ち帰って飼育する児童もいた。

## 感想・課題等

○3年前に、SDGs 未来賞をいただいたから、SDGs への関心が高まり、その後も児童が SDGs の取組としてできることはいかと考え、学習や日常生活の中で継続して取り組んできた。給食等でのごみの削減やリサイクル活動、生き物と関わる環境活動などの取組は定着している。地域の人とかかわる活動もさらに充実を図っていく。地域のよさに気付き、地域へ関心や愛情をもち続ける児童を育てていきたい。

## 地域のボランティア清掃（5年生から全校生への活動へ）



## 3年生から準備をしたプールでのヤゴ救出作戦（4年生）



大杉第二小学校		救出したヤゴの種類と数	5月9日10:30~
トンボの種類	ヤゴの形	数	
ギヤンマ クロスジギヤンマ		300以上	
シオカトントボ		100以上	
アカネの仲間		50以上	
ウスバキトンボ		×	
イトトンボの仲間		さいじょにたぐい これた。	100以上
そのほか	コオイムシ、1匹	アメンボ多、ミムシ多 アカムシ(エスカムシ) サカマシが多	

エコセンターのみなさんとツルレイシを植える  
「緑のカーテン」づくり（4年生）

## 「サツマイモくらぶ」の活動（中休み）

学校や地域をきれいにする  
「花いっぱい大作戦」（2年生）

## 河川敷のごみ拾い（ボランティア清掃・1年生）



学校名	江戸川区立東小松川小学校	対象学年と人数	全学年：646人							
活動名	新校庭を蓮と花で彩るヒガコマ									
指導者	学内指導者： 校長 藤島 寿晴 他 全教職員 学外支援者： 尾崎 守男 様（蓮田を守る会）、PTA、学校応援団									
1 人権を尊重する 	2 持続可能な開発目標 	3 積極的に資源を循環させる 	4 みんなで読む本 	5 性別平等 	6 おしゃべりを楽しむ 	7 おしゃべりを楽しむ 	8 豊かな人生を実現する 	9 緑を育む 		
10 人権を尊重する 	11 積極的に資源を循環させる 	○	12 積極的に資源を循環させる 	○	13 みんなで読む本 	14 おしゃべりを楽しむ 	15 おしゃべりを楽しむ 	○	16 おしゃべりを楽しむ 	17 人権を尊重する 

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 蓮掘りの様子を観察し、蓮について関心をもつ。
- 蓮田を継承する地域の方々と交流を図り、地域への愛着と感謝の気持ちを育てる。
- 4年越しで完成した新校庭で若い木々やたくさんの花々を育て、自然を愛する気持ちを育てる。屋上緑化、太陽光発電などの施設に関心をもち、持続可能な社会への意識を高める。

## 成果

- 校庭が出来上がり、地域の伝統産業である蓮を育て観賞する機会を身近に感じられるようになった。大きな葉や、白やピンクの花を見上げて驚きと感嘆の声が上がっていた。地域の人材資源を活用して保護者、地域、教職員が一体となった活動を展開することができた。
- 新校庭に若い木々がたくさんある。委員会活動の児童を中心に植えた花の苗や球根の世話をがんばっている。自分たちの校庭をみどりでいっぱいにしようという意欲を感じる。
- 総合的な学習の時間で3年生が「江戸川区産の小松菜をみんなに知ってもらいたい！」と様々な取り組みを行った。学校公開では、区内の農家から直接仕入れた小松菜を販売し、各ブースでは自分たちが調べたことやおすすめレシピなどを展示した。蓮とともに、地域の伝統的な野菜作りに興味をもつことができた。

## 感想・課題等

### 【児童の感想】

- 「土の中から足を抜くのも一人ではできなくて、地域の人や PTA の人にひっぱってもらいました。」「ものすごく楽しい、なかなかできない体験でした。」
- 「蓮を掘るところを初めて見ました。来年は、自分も蓮田に入って収穫してみたいです。」
- 「自分たちで小松菜屋さんをやって、お店の人や農家の人のつながりが分かりました。」

### 【課題】

- 年度初めは校庭工事中だったため、蓮植えが PTA と地域の方だけの活動になってしまい、児童は見学することもできなかった。来年度は、1年間を通して蓮の観察ができるので、学習材として生かしたい。
- 蓮植えや蓮掘りの様子、蓮の成長過程を学校ホームページに積極的に紹介することができなかった。本校の特色のある教育活動の様子を広く周知していく必要がある。

## 【 7月 蓮の花とつぼみ 】



7月に校庭が完成し、近くまで行って「蓮田」を見学できるようになりました。蓮の葉の大きさにびっくり。蓮の花のきれいさにも感動の声がでていました。



## 【 11月のレンコン掘り 】



昨年度4月の蓮植え以来1年半ぶりに、蓮田での作業を間近で見学することができました。「私も、中に入って蓮堀りたーい！」という声が、たくさんあがりました。

## 【 花いっぱいの校庭に！】



## 【 江戸川区の小松菜 おいしいよ！！】



11月の土曜公開日に、3年生が江戸川区産の小松菜販売を行いました。農家から直接仕入れた、新鮮な小松菜です。おすすめレシピの紹介や、校内小松菜クイズラリーなど、工夫を凝らした内容でした。

委員会活動で、新しい校庭に、春に咲く花の球根を植えました。



学校名	江戸川区立 船堀小学校	対象学年と人数	本校全児童 778名
活動名	船小ガーデンを通した体験学習と築山の改築		
指導者	学内指導者：各学級担任 学外支援者：さつき会（PTA 後援会）		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

授業時間外での植物栽培活動を通して、季節の草花に触れ合うことで植物への関心を高め、学年で植えた植物や、学校で育てている植物への水やり、畑の整備を通して児童一人ひとりのボランティアマインドを高める。

## 成果

昨年度に引き続き PTA 後援会のさつき会にひと区画担当していただき、地域の方々と一緒に船小ガーデンの運営を行っている。ボランティアの方々とも連携を取り、花の植え替えや、休日の水やり等力を借りることができた。また、船小ガーデンで育てた落花生を、PTA 主催の船小まつりで少量ではあったがふるまつた。

今年度も野菜の栽培を行い、収穫まで行った。理科栽培委員会が主で動き集会等で野菜の育てかたや、活動を全校に発信した。また、収穫の際には委員会以外に畑のお世話をしてくれた児童にもできた野菜を配った。

## 感想・課題等

一年を通して緑を絶やすことなく活動をすることができた。春の種をまいた時期や、冬の葉や花が落ちた時期にも、常緑性のあるシロタエギクや、カラーリーフなどを植えたことがよかった。今後も常緑性のある植物をレイアウトに入れ、船小ガーデン内に緑がある状態を続けていきたい。

毎日の活動では、収穫の時期や花が咲く時期には児童がよく訪れお世話をしてくれていたが、種まき直後や、収穫後などはあまり人が集まらなかった。全体へのアナウンスが少なかったのが原因だと感じる。来年度は、委員会の活動を通して船小ガーデンの様子をさらに発信していく必要がある。本校では、給食の時間に給食委員会が月の給食目標を全クラスに伝えに行ったり、運営委員会が放送を使い全校へアナウンスしたりしているので、ほかの委員会の活動を参考に校内に船小ガーデンの様子を周知していくと考えている。今後も各学年と委員会の区画に分け、委員会の児童以外にも船小ガーデンの運営に関わってもらう。より船小ガーデンでの活動が活発になるよう工夫が必要になる。

また、今年度築山に花壇と藤棚を作る計画が進んでいる。11月の委員会ではその花壇にチューリップの球根を植えた。来年度も引き続き実施の予定なので校内緑化に励んでいく。

4～5月（夏）・10月～11月（冬～春）

理科栽培委員会による花の苗植えの様子（船小ガーデン）

季節の花、野菜の苗から選び注文、より船小ガーデンが綺麗に見えるように並び順やレイアウトを子供達で決め植えていった。



11月

チューリップの球根植え（築山斜面）

花の咲く時期のことなるチューリップを植えることでより長く楽しめるようにした。



学校名	二之江第二小学校	対象学年と人数	全学年 338人														
活動名	「みんなで守ろう環境計画 地球の未来は二之江から」																
指導者	学内指導者：校長 鳥居 圭 他 全教職員 学外支援者：蓮田愛育会、公園ボランティア、学校応援団、PTA、田中農園																
1 	<input type="radio"/>	2 	<input type="radio"/>	3 	<input type="radio"/>	4 	<input type="radio"/>	5 	<input type="radio"/>	6 	<input type="radio"/>	7 	<input type="radio"/>	8 	<input type="radio"/>	9 	<input type="radio"/>
10 	<input type="radio"/>	11 	<input type="radio"/>	12 	<input type="radio"/>	13 	<input type="radio"/>	14 	<input type="radio"/>	15 	<input type="radio"/>	16 	<input type="radio"/>	17 	<input type="radio"/>		

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 各学年における栽培活動を通して、CO<sub>2</sub>削減、室内温度の上昇防止、リサイクル活動など身近な環境問題やその改善に関心をもたせる。
- 校内における蓮田や校内花壇を中心とした栽培活動や金魚等の生き物観察を通して、自然を大切にしようとする意識を高める。

## 成果

- 飼育委員会を中心にウサギを飼育し、他の学年もウサギと触れ合う機会を設け、学校全体で生き物を大切にすることを意識することができた。
- 学年園で複数の野菜を育てて比較する学習や、ヤゴの飼育・観察を行った。児童が動植物に愛着をもち、自然を大切にしようとする意識をもつことができた。
- 3年生では、地域の方と連携して、校内にある蓮田で蓮の栽培をした。また、蓮の育て方を本で調べて学習し、蓮について画用紙にまとめた。また、栄養士と連携して給食の献立を用いた学習をした。これらを通し、地域の産業への興味関心を高めるとともに郷土愛を深めることができた。7月には、近隣の公園に出かけ、公園の花壇の花の苗の植替えを行い、地域の自然へも目を向けられた。
- 地域の伝統産業である蓮を育てることで、郷土に対する誇りと地域の一員としての自覚を高めることができた。
- 4年生では、環境問題についての調べ学習やグリーンネットを利用したゴーヤとヘチマの栽培を通して、持続可能な社会への関心を高めた。
- 植物の栽培を進めることで、小さなことでも継続することが大切であること、たくさん的人が集まれば大きな力になることに気付くことができた。

## 感想・課題等

- 授業の中でしか植物や生き物を育てたことがない児童が少なくなつたため、今回の経験を通して植物や生き物を育てる楽しさや難しさを実感することができたと思う。
- 学校全体で環境教育を意識することで、他教科と環境教育の横断的学びの意識が高まった。
- 蓮田愛育会の方に来校いただき、蓮の植え方・育て方等を教えていただいたことで、児童はもちろん、教師も大変勉強になった。今後も、地域の方と連携して環境学習を進めていきたい。

## 【3年生 蓮植え・蓮の収穫】

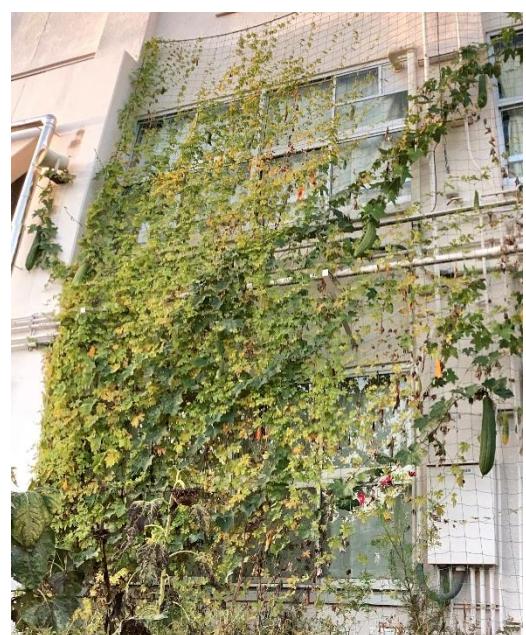


夏には、蓮の花が咲きました。

収穫した蓮は、レンコンの挟み揚げにして、  
給食でおいしくいただきました。



## 【4年生 グリーンカーテン】



学校名	第四葛西小学校			対象学年と人数	全学年：645人 グリーン委員会：22人 園芸委員会：23人			
活動名	グリーンアドベンチャー							
指導者	学内指導者：教職員全員							
1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 
10 	11 	12 	13 	14 	15 	16 	17 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 緑豊かな第四葛西小学校の環境を生かし、樹木や草花に親しむ。
- 活動の中で様々な感覚に働きかけることで、豊かな感性を養う。
- 異年齢集団による活動を通して、相手への思いやりの気持ちを養う。

## 成果

- 1年間、自分の担当の木を観察したりクイズを作ったりしたことで、担当の木の知識や愛着をもつことができた。また、担当する木の写真を四季に応じて写真を撮り、グループで共有するなど、例年より木について深く調べることができた。
- 縦割り班活動では、高学年が率先して低学年に担当の木の特徴を伝えている姿が見られた。
- グリーン委員会の児童が、金魚と亀の世話をしたり、わらをプールに撒き、トンボの住処をつくったりと、生き物や自然を大切にしようとする活動ができた。
- 園芸委員会の児童が、花の手入れや水やりをしたり、新しい花を植えたりする活動を通して、校内の自然を大切にすることことができた。

## 感想・課題等

- 児童がそれぞれの担当の木を1年間観察したり、クイズを作ったりしたことで、一人一人が本校の木々に興味をもつことができた。
- 縦割り班で活動したことで、高学年が低学年に優しく関わる機会を得ることができた。また、低学年も高学年に関わることで本校の樹木や草花について教わることができた。
- グリーン委員会では、生き物の世話をすることを通して、自分たちで本校の環境をよりよくしようとする態度を育てることができた。

## 課題

- 木の成育が悪化するなどの不測の事態が生じた際に、継続観察の難しさがあった。
- 本校の木の成育管理をする難しさを感じた。
- 園芸委員会が新しい花を植え、児童たちが花に親しめるよう活動することができたが、全校に周知する集会を開くことができなかった。

【グリーンアドベンチャーの活動】



【グリーン委員会の取り組み】



【園芸委員会の取り組み】



学校名	江戸川区立第五葛西小学校		対象学年と人数	全学年 453人				
活動名	五葛西みどりいっぱい活動							
指導者	学内指導者： 1～6年担任 栽培委員会担当教諭 学外支援者：							
1 人権を尊重する 	2 経済を活性化する 	3 積極的に資源を循環させる 	4 知の豊かな社会をめざす 	5 フレンドリーな社会をめざす 	6 経済を活性化する 	7 環境を守る 	8 経済成長と社会開発をめざす 	9 緊密な地域社会をめざす 
10 人権を尊重する 	11 経済を活性化する 	12 積極的に資源を循環させる 	13 知の豊かな社会をめざす 	14 環境を守る 	15 経済を活性化する 	16 経済成長と社会開発をめざす 	17 ハーバルガーデン 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 小学校の花壇を整備し、花や野菜を植えることで、校内外の人々に憩いと潤いを与える。
- 花壇にミニ農園を作つて農作物を栽培し、できた作物を収穫する喜びを体験する。
- グリーンカーテンを作ることで、植物と地球温暖化の関係を考える機会を作る。
- 収穫した作物を給食のサラダに加えるなど、自然の恵みに感謝しながら会食など活用する機会をもつ。

## 成果

- 児童が登下校の際に通過する校庭の花壇では、栽培委員会の児童が中心となり、パッショングルーツ、ツルレイシ、アサガオの緑のカーテン栽培はじめ、様々な野菜・草花の栽培を続けた。キュウリや小松菜などの収穫物を給食の材料として、学内で食することができた。
- 1年生の朝顔、2年生のミニトマト・さつまいも、3年生の小松菜、4年生のヘチマ・ゴーヤ、5年生の米、6年生のホウセンカなど、各学年においても、植物の世話や観察を通して、植物の成長や花や実の変化に興味・関心をもたせる活動ができた。
- 緑のカーテンや植物の栽培を進めることで、小さなことでも継続することが必要であること、地道な努力が地球温暖化を防ぐことにつながることに気付くことができた。

## 感想・課題等

- 土づくりが上手く進み、5月に植えたキュウリやナス、ピーマンは大きく育ち、子供たちも驚きの眼差しでよく観察していた。それらを養士に相談して給食のサラダのメニューに加えてもらい、旬の野菜として食することができた。6、7月には、トマト、枝豆、ゴーヤ、10月には米、11月にはさつまいも、バジル、セロリ、12月には小松菜、白菜などの収穫があり、年間を通して野菜を育てることができた。
- グリーンカーテンは、校舎を覆いつくまでには至らなかったが、5月から9月までの長きにわたって校舎の窓・壁に当たる強い日差しを遮ってくれた。
- 今年度は、高温・少雨の天気が続き、植物を枯らさないように世話をする努力が必要だった。特にキュウリやトマト栽培は、葉が枯れたり、実が割れたりして収穫量が落ちた。
- 栽培委員会の児童は、学期ごとに育てる野菜や花を考え、当番を決めて、毎日水やりや観察を行った。こうした児童主体の活動により、学校緑化の意識が高まることにつながった。また、高学年が花壇の世話をしていると、低学年の児童や学童・すぐ近くスクールに通う児童がその様子を見ていて話しかけたり、自主的に手伝いをしたりする様子がよく見られた。

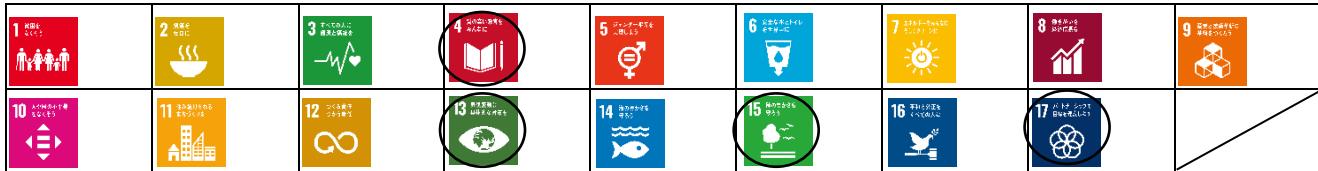
## 活動報告（活動写真）

学校名

第五葛西小学校



学校名	第六葛西小学校	対象学年と人数	環境委員会（5・6年生）21名
活動名	木の名前プレートづくり～校庭の木と友達になろう～		
指導者	学内指導者：環境委員会担当教員 学外支援者：なし		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・校庭の木の名前や特徴に関心をもち、自然と親しむ心を育てる。
- ・他学年の児童にも木に興味をもってもらえるよう、分かりやすく伝える力を育てる。
- ・学校全体で緑を大切にする意識を高める。

## 成果

- ・木に名前プレートを設置したことで、登下校や休み時間に木の名前を読んで興味をもつ児童が増えた。
- ・プレート作りを通して木の種類や特徴を調べる活動が活発になり、自然観察への意識が高まった。

## 感想・課題等

### <感想>

- ・木の特徴を調べる過程で、図鑑から気について興味が広がった。

### <課題>

- ・プレートが雨や風で劣化するため、今後は耐水加工や定期点検の仕組みを作る必要がある。
- ・他学年にも木の世話や観察を引き継ぐ活動を計画していく必要がある。

本校では、校庭にある木々の名前を知り、自然に親しむ心を育てる目的として、「木のネームプレートづくり」に取り組んだ。環境委員会の児童を中心に、木の特徴や名前を調べ、自分たちの手で木札に名前やイラストを丁寧に書いた。



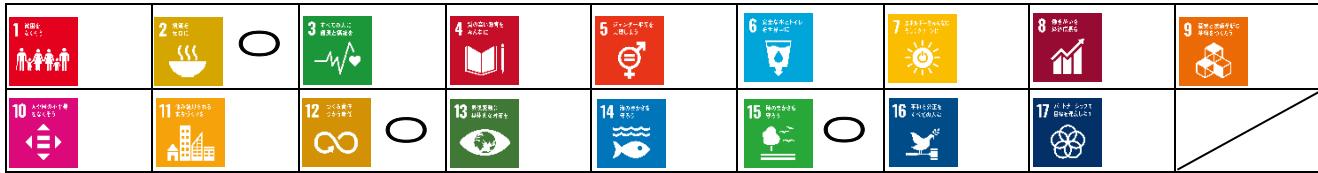
完成したプレートは、校庭の木の枝や幹の近くに取り付けた。取り付け作業中も、「この木の葉っぱ似ているね」「この名前はどういう意味かな」など、自然への関心が広がる姿が見られた。



活動後、登下校や休み時間に木の名前を読みながら自然と触れ合う児童が増え、校庭全体が学びの場となった。今後も木の成長や季節の変化を観察し、プレートを通して自然を大切にする気持ちを育てていきたい。



学校名	南葛西第三小学校	対象学年と人数	第5学年 91名
活動名	学校に田んぼを作ろう		
指導者	学内指導者：戸邊 俊一 須貝恒希 野崎 愛美 学外支援者：		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 米作りを進めるにあたり、田んぼづくりをするところから体験的に学ぶことで、食糧生産の難しさや収穫の喜びに触れる。
- 体験活動を通して、改めて食品ロスなどのない生活を心がけて生活しようとする意識をもたせる。

## 成果

- 児童に、糲の芽出しや土づくりから体験を行わせることができた。
- プラ舟を田んぼの代わりとして用意することで、これまで行っていたバケツのような小さい場所でのコメ作り体験よりも児童一人一人の体験の機会を多くすることができた。
- 実際に育てることで、農作業の大変さを実感した児童から「お米を食べるときは感謝して食べたい。」「米不足があるので、農家の方の苦労が分かった。」といった感想が出た。

## 感想・課題等

本校には田んぼとして設置されているものではなく、使われなくなった池を使って米作りを行ってきた。その場所が狭いに深い仕切りがあり、全ての児童に同じ体験をさせる事が難しかった。今回いただいた予算で各クラス分のプラ舟と土を購入した事で、全ての児童が同じように土や糲、田んぼにやってきた小さな生き物に触れることができた。

一方今年度は、6月の梅雨の時期から気温がどんどんと上がり、植えた苗の成長が遅れるとともに、猛暑を想定して場所を設定しなかったために直射日光を常に田んぼが浴びる状況になってしまった。よしずで日陰を作ろうと試みたが、水温の上昇を抑えることができずに育てていた糲のほとんどが枯れてしまった。児童とともに我々教員一同も自然を相手に食糧生産を行うことの難しさを痛感した。

お米を収穫してみんなで食べるという目標を達成することはできなかったが、学習活動を通して食糧生産の難しさや、農家の方への尊敬や感謝の気持ちをもたせることにつながった。

## 【プラ舟を使用した田んぼ】



## 日よけ対策のよしず



よしずの効果もむなしく夏の盛りには、水温が50度近くまで上がってしまいました。

## 【種糞の芽出し】



60度のお湯で種糞を殺菌してから芽出しをしました。  
熱し過ぎて失敗してしまった班もありました。

## 【田植えの様子】



## 【小さな花が咲きました】



学校名	新田小学校		対象学年と人数	全学年 304人				
活動名	Shin Den Goals 自然の豊かさを守ろう							
指導者	学内指導者：全職員 学外支援者：学校応援団 子ども未来館講師							
1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 
10 	11 	12 	13 	14 	15 	16 	17 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・学校周辺の自然や生き物について学び、自然の豊かさを守ろうとする意識を高める。

## 成果

- ・3年生は、昨年度設置したヤゴトープで育ったヤゴを救出し、羽化したトンボを放すことで、身近なところに多くの命が育っていることを実感することができた。
- ・環境委員会では児童の自主的な活動が増え、校内の緑化に取り組むことができた。
- ・校庭の池を整備したことにより、児童が興味をもち、進んで餌やりをしたり落ち葉を取り除いたりするなど、生き物に親しむことができた。
- ・学校応援団の協力でカブトムシの飼育に挑戦し、子供たちの楽しみの一つとなった。

## 感想・課題等

新田小学校では、SDGs を ShinDen (新田) Goals と掲げて各学年の教育活動に位置づけ、毎年取り組んでいます。

昨年から始めたヤゴトープは、トンボが羽化し空に飛び立つところまで3年生の子供が見守ることができて、生き物への親しみを実感する取り組みとなりました。3年生では、子ども未来館の講師の方に1学期、2学期と出前授業をしていただき、生き物のこと、学校周辺の自然のこと学んだことにより、以前よりも学校周辺の自然環境、生態系についての関心が高まったようです。

環境委員会の活動も、前年度の活動を踏襲しつつ、児童の自主的な活動が見られるようになりました。今年は、天気に恵まれ、全校で「グリーンアドベンチャー」を実施することができ、校庭の樹木に関して楽しみながら学ぶことができました。

校庭の池は、まだ整備の途中です。ゆくゆくはハスの花が咲く下でコイやメダカが泳ぐ池を目指しています。

継続して取り組むことが、より環境への意識を高めます。学校教育全体の中で、いかに活動を位置づけ、継続していくかが課題ですが、新田小学校の SDGs を引き続き実践していくたいと思います。

ヤゴトープで生まれたヤゴの羽化（3年）



ヤゴトープ 浮島作り（2年）

子ども未来館の  
出前授業

校庭の池



カブトムシの小屋

環境委員会の  
花の栽培活動

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	5, 6年 20人
活動名	地域一体！ お花咲かせ隊		
指導者	学内指導者：栽培委員会担当教員 学外支援者：学校応援団（お花咲かせ隊）		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 校内や校内周辺の花壇を整美し、明るく和やかな学校づくりに励む。
- 地域の方々との活動を通して、お花の配置を考え、学校の雰囲気をよりよくする。

## 成果

- 毎日の水やりなどの活動を通して、植物を元気に育てることの難しさを実感した。整美をしていただいた方が、土を整えている様子を見て、環境の大切さを実感できた。
- 植栽や手入れについて多くのことを学び、植物に対して興味・関心を高めたり、花の配置を考えたりすることで、その場の雰囲気を変えることができるとわかった。

## 感想・課題等

- 花の配置を地域の方々からアドバイスをもらいながら考えたことにより、校内や歩道の雰囲気がとても明るくなった。参加した児童だけではなく、低学年の児童も花がきれいになっていることで、植物に興味・関心をもつようになった。
- 植栽できるところがすぐにかれてしまう場所があった。花をどの時期に植えるのがよいのか、どのくらいの期間で枯れてしまうのか、調査し、改善する必要がある。
- 地域の方々と交流することで、栽培委員会の児童たちは、植物が生長している様子をより実感することができた。その結果、水やりの仕方（回数・量の調整など）に以前よりもこだわってやるようになった。



みんなで、レイアウトを考え



ていねいに育て

明るくなりました

学校名	江戸川区立瑞江小学校	対象学年と人数	5・6年生(飼育・栽培委員会)
活動名	学校に花を植えよう・ヤゴ救出大作戦		
指導者	学内指導者： 吉田拓司 横山大 学外支援者：		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 生物や自然とのふれ合いを通して、慈愛の精神を養う。
- 水生昆虫の生態を観察し、理解を深める。

## 成果

- 1年間の中でプランターに植える花を調べ、植える計画を立てることで植物に対する関心をもつことができた。
- ヤゴの生態について調べ、集会にてクイズ形式で発表することができた。
- ヤゴ以外の生き物の観察をすることができた。

## 感想・課題等

- 今回は、外部指導員の方をタイミング等が合わず呼ぶことができなかった。来年度は、事前に計画を立てて活動を増やしていきたい。
- 昨年度に取り付けた樹木の名札が取れてきたので、来年度以降に再度、整備をしていく。
- 観察池のヘドロの除去を進めていく必要がある。
- 継続的に観察池の環境改善を図っているが、取り除いた落ち葉や水草の活用ができていないので肥料にするなどの過程を考えていきたい。←今年度は、プランターの肥料として活用した。
- プランターに季節ごとに花を植えた。児童に関心が向けられるように計画していきたい。



学校名	新堀小学校	対象学年と人数	保健環境委委員 18名
活動名	新堀小グリーンプラン2025		
指導者	学内指導者： 保健環境委員担当教員 学外支援者： 学校応援団		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

○校内にある銅像公園の整備をし、四季折々の草花を鑑賞してもらう。

○身の回りにある自然に触れ、自然の素晴らしさを感じ、大切にする心を育てる。

## 成果

○銅像公園のアジサイの植栽について、今年度すべての区画（4区画）の植栽が終了した。今年度の異常な暑さもあり、枯れかけてしまった苗もあるが、春に緑の葉が出てくることを期待している。また、昨年度や一昨年度植栽した苗が徐々に大きくなっている、今後もしっかりと世話をていきたい。

○新たな取り組みとして、委員会児童に、1人ひと苗責任をもって育てる活動をさせた。夏は夏野菜、冬は寄せ植えを行い、責任もって水を与えたり、休み時間に様子を見に行ったりする姿が見られた。

## 感想・課題等

○今年度もアジサイの苗を追加で植えました。少しづつ大きくなったアジサイを楽しみに6月を迎えます。今年の夏も気温が高く、アジサイには厳しい陽気だったので「先生！水あげいく？」と、一日に何度も水をまきに行く子供たちの姿を見ることが出来ました。来年度は、追肥にもチャレンジして植物の成長の経過を見ていきたいです。

○責任をもって活動に取り組むために1人ひと苗の活動をしましたが、意欲的に育てる子と、放置してしまう子の差がとても大きかったように感じます。特に夏野菜は、少し放置してしまうと枯れそうになってしまい、実がうまくつかないような状態になってしまいました。実際に植える活動をする前に、植物を育てるこの難しさやどんなものにもお世話が必要であることを学んでから活動に入るようにしたいと思います。



冬の1人ひと苗は、3種類の寄せ植えをしました。



ひと苗ひと苗を丁寧にしっかりと植えました。今後のお世話も頑張ります！

学校名	江戸川小学校		対象学年と人数	2年27人・4年32人				
活動名	江戸小グリーン大作戦							
指導者	学内指導者： 鈴木 淳 大久保 彩子 小熊 洋貴 當間 雄太 学外支援者：							
1 人権を尊重する 	2 経済を活性化する 	3 積極的に資源を循環させる 	4 いのち・健康を守る 	5 いのち・健康を守る 	6 まちづくりを実現する 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 経済成長と社会の持続可能性 	9 緊密な連携で資源を循環させる 
10 あらゆる種の生物を保護する 	11 経済成長と社会の持続可能性 	12 経済成長と社会の持続可能性 	13 気候変動に具体的な対策を 	14 あらゆる種の生物を保護する 	15 まちづくりを実現する 	16 経済成長と社会の持続可能性 	17 あらゆる種の生物を保護する 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

### 1. 地域の自然をまもり育てる活動を行う

学校の花壇に野菜を大切に育てたり、落ち葉やゴミを拾ったりして環境をきれいに保つ。→ SDGs 目標 15 「陸の豊かさも守ろう」に関連。

### 2. エコな生活を考え実行する

水や電気をむだに使わない、リサイクルやリユースを意識する。

→ SDGs 目標 12 「つくる責任 つかう責任」、目標 13 「気候変動に具体的な対策を」に関連。

## 成果

今年度のグリーン作戦では、身近な自然とふれあいながら環境について学ぶことを目標に取り組みました。畑づくりから水やり、草取りなどをみんなで協力して行い、ナスやキュウリ、オクラ、ヘチマ、そしてサツマイモを収穫することができました。野菜が育つまでの過程を観察する中で、土や日光、水の大切さを実感しました。また、収穫した野菜を生活科の学習などに活かすことで、食べ物をむだにしない心や感謝の気持ちも育ちました。植物を育てる活動を通して、自然環境を大切にする意識が高まり、SDGs の目標である「陸の豊かさを守ろう」や「つくる責任 つかう責任」にもつながることを学びました。

## 感想・課題等

日当たりの違いによる生育の差など、実際に体験して学ぶことで、教科書だけでは得られない気付きを多く得ました。また、収穫した野菜を家庭で調理して味わうことにより、「食べ物を大切にする気持ち」や「自然の恵みに感謝する心」を育むことができました。

児童からは、「自分たちが育てた野菜を食べられてうれしかった」「植物も生きているから、毎日声をかけたくなった」などの感想が多く聞かれました。一方で、「雑草取りが大変だった」「虫に葉を食べられて悔しかった」「もっとたくさん収穫できるように工夫したい」といった意見もあり、自然と向き合う難しさや、継続する力の大切さを感じた様子も見られました。

次の課題としては、季節ごとの気候変化に合わせた栽培方法の工夫や、堆肥づくりなど資源を循環させる取組を取り入れることが考えられます。また、環境問題への理解をさらに深めるため、地域の方々や専門家との交流を通して学びを広げる活動も大切だと考えます。今回の経験をもとに、児童たちは SDGs の理念である「持続可能な社会をつくる」という意識を身に付け、これからも自然を大切にする行動を続けていくことが大切だと考えます。



5月、野菜を植えるために草抜きをしました。どんな野菜を植えるかみんなで相談しました。みんなで意見を出し合い、ナスやキュウリなど育てやすい野菜を選びました。

ナスやピーマン、オクラなどの苗をやさしくやさしく植えました。これからの成長が楽しみです。水をあげると、苗が元気に顔を上げたように見えてうれしかったです。



えだまめやナス、オクラなど、たくさん収穫できました。みんな大喜びでした。自分たちで育てた野菜の味は、とてもおいしく感じました。がんばって世話をした分、自然の恵みへの感謝の気持ちが深まりました。

みんなで協力して田植えを行い、苗をまっすぐ丁寧に植えました。泥の感触に驚きながらも、だんだんと作業に慣れて楽しくできました。秋の収穫を楽しみに、水やりや観察を続けていきたいと思います。



ヘチマも今年は大成功。ぐんぐんと伸び、たくさんできました。花が咲いて実が大きくなる様子を観察するのが毎日の楽しみでした。みんなで育てたヘチマが立派に実ったときは、達成感でいっぱいになりました。

さつまいもやお米の収穫では、みんなで力を合わせて楽しく作業しました。土の中から大きなさつまいもが出てきて、歓声があがりました。自分たちで育てた作物を収穫できて、食べ物のありがたさを感じました。

学校名	鹿骨松本小学校			対象学年と人数	全学年：369名			
活動名	ししまつっこ自然大好き作戦							
指導者	学内指導者：全教員 学外支援者：学校応援団の皆様、小松菜農家中代様、やぎボランティアの皆様							
1 	2 	<input type="radio"/>	3 	<input type="radio"/>	4 	<input type="radio"/>	5 	<input type="radio"/>
6 	7 	<input type="radio"/>	8 	<input type="radio"/>	9 	<input type="radio"/>	10 	<input type="radio"/>
11 	12 	<input type="radio"/>	13 	<input type="radio"/>	14 	<input type="radio"/>	15 	<input type="radio"/>
16 	17 	<input type="radio"/>						

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・学校や地域の自然を通して、身近な自然に関心をもち、自然と親しみ、関わり合う子どもを育てる。
- ・学校全体で取り組んでいるやぎの世話をを行うことで、生き物の命の大切さを知り、動植物への愛情をはぐくむ。

## 成果

- ・1年生は、一人一鉢で朝顔を育てたり、夏や秋の校庭を観察したりして、身近な自然に親しむ活動を行った。
- ・2年生は、学校のミニ畑にてさつまいもの栽培や一人一鉢で夏野菜を育て、観察カードにまとめた。また、地域探検で花園めぐりを行い学習発表会で、わかったことを発表できた。
- ・3年生は、小松菜農家中代様に「小松菜の栽培方法」を詳しく聞きに行き、学習発表会で発表することができた。
- ・4年生は、コスモスを育て鹿骨松本小の校庭に彩を添えた。
- ・5年生は、花壇の整備を行った。それぞれの学年の花壇の草取りや肥料を混ぜ、植物が育ちやすい環境を整えた。
- ・6年生は、江戸野菜を育て、東京の野菜について知識を持つとともに、自分たちが住む東京について詳しく調べることができた。
- ・また、なかよし班活動の一環として、週替わりでヤギのお世話を設けている。生き物の命の大切さを知り、動物への愛情をはぐくむことができた。

## 感想・課題等

新校1年目として、鹿骨松本の特色をいかし「花」「小松菜」「校庭の植物」「ヤギの世話」を中心として活動した。それぞれの学年で児童が興味・感心を抱いたことを核に自然と親しむ活動を行うことができた。また、その活動を学習発表会で地域の方に披露することができた。

来年度は、さらに地域の方と協力し、田植えや花の寄せ植え体験などできることをさらに広げていきたいと考えている。

## 学年花壇



## やぎのよつばとつばき



## 小松菜給食



学校名	鹿骨東小学校		対象学年と人数	全校				
活動名	自然と親しみ、学ぼう							
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：グリーンボランティア 子ども未来館の皆様							
1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 
10 	11 	12 	13 	14 	15 	16 	17 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・学校や地域の自然の観察などを通して、身近な自然に関心をもち、自然と親しみ関わりあう子供を育てる。
- ・プールにおいて、「ヤゴトープ」を設置し、ヤゴを飼育する。自然の命の尊さを尊重できる子どもを育てる。
- ・5年生は、校庭の田園で田植えと稻刈りを行い米を育てる大切さを学ぶ。

## 成果

- ・2年生は、来年度に向けてヤゴトープを設置した。ヤゴとはどんな生き物なのか、外部講師から説明を受け、興味関心を高めた。児童は来年度の収穫を楽しみにしている。
- ・3年生は、プールに設置したヤゴトープに住み着いたギンヤンマ、ヤゴ等を採集した。捕まえたヤゴは教室で大切に育てた。しばらくすると、トンボになり羽ばたいていった。
- ・4年生は、年3回篠崎公園へ自然観察を行った。外部講師を招いて篠崎公園の樹木や生き物について説明を受けた。自然bingoを行い、自然に関心をもち、親しむことができた。
- ・5年生は、地域のグリーンボランティアを招いて田植えを行った。稻の植え方や鎌の使い方を教えていただいた。田の管理も、5年生児童を中心に毎日行い、立派に実った。9月には稻刈り、12月には脱穀を行い、収穫の喜びを味わうことができた。収穫した米は、3学期の調理実習で食べる予定である。
- ・50周年を記念して、高学年を中心に花の寄せ植えを行った。畑を耕すところから始め、心を込めて寄せ植えを行うことができた。
- ・蝶を呼びこむため、柑橘系の苗木を植えた。

## 感想・課題等

- ・生き物や植物に親しむ活動を多く行うことができた。どちらも児童は成長を楽しみにしており、自然への関心が高まっている。
- ・グリーンボランティア、科学館の方々といった、外部講師の力を借りることにより、実りのある実践ができたと感じる。今後も積極的に協力していきたい。
- ・命ある生き物を適切に管理する必要がある。児童はもちろん、教員が関心をもち、毎日の管理に努める。今年度は廊下にトンボが飛んでいるケースは少なかったが、丁寧に面倒をみていきたい。

## ヤゴトープと浮羽化したトンボ



## 田植えと稻刈り



## クリーンアップ作戦による緑道の掃除



学校名	江戸川区立篠崎小学校			対象学年と人数	全学年 約580人			
活動名	学校農園を生かした学習・残菜を減らす取り組み							
指導者	学内指導者： 教職員 学外支援者： 篠崎小学校農園ボランティア、弘済会ボランティア							
1 人権を尊重する 	2 経済を活性化する 	3 積極的に気候変動に取り組む 	4 知の豊富なみんなで 	5 フィードする 	6 積極的に資源を循環させる 	7 積極的に資源を循環させる 	8 積極的に資源を循環させる 	9 積極的に資源を循環させる 
10 あらゆる種類の資源を循環させる 	11 積極的に資源を循環させる 	12 積極的に資源を循環させる 	13 積極的に資源を循環させる 	14 積極的に資源を循環させる 	15 積極的に資源を循環させる 	16 積極的に資源を循環させる 	17 積極的に資源を循環させる 	

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 学校農園での栽培活動や生き物観察を通じて、身近な自然と触れ合い、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。
- 給食委員会による給食の残菜を減らす活動を通して、SDGs に関心をもたせるとともに、自分にできることを少しでも取り組もうとする意識を高める。

## 成果

- 学校農園で、低学年はサツマイモ、中学年はツルレイシやヒヨウタン、高学年はジャガイモやホウセンカなどの植物を栽培した。栽培活動を通して、植物を育てる大変さを実感したり、植物を大切にしようとしたりする姿が見られた。
- 学校農園には、様々な植物が栽培されているため、季節による自然の変化や生き物の様子を観察することができた。児童が、植物や生き物に親しみをもって関わることができた。
- 給食委員会では、SDGs の取り組みとして、「残菜チェック」の活動を企画した。残菜チェックを4日間実施した結果、残菜量が普段の半分に減らすことができた。実施に伴い、委員会で「あと一口食べるとどれくらい残菜が減るのか」「残菜を減らすことで得られる効果」などを説明した動画を作成した。動画を作成したこと、「あと一口食べる」という意識をもって給食を食べることができた。
- 今年度をもって、農園の土地を返却することが決定した。返却するにあたり、栽培委員会を中心に、お別れ集会を計画することができた。お別れ集会を通して、農園があることのありがたみを実感することができた。

## 感想・課題等

- 学校農園の栽培活動では、土作りや収穫作業、草取りなど、学校農園ボランティアや弘済会ボランティアと連携を取りながら活動することができた。
- 農園の土地を返却することになったことで、来年度からは、栽培する植物を減らすことが決定している。ジャガイモなど、普通のプランターでは栽培が難しい植物の栽培方法について、地域の方などの知識もいただきながら考えていく必要がある。
- 学校農園がなくなるにあたり、季節による植物の変化や生き物の様子について観察する場所が一つ減ってしまう。校庭に植物を栽培したり、近くの公園に見学に行く計画を立てたりしながら、できる限り自然に触れる機会を確保していくことが課題となる。また、出前授業なども活用しながら、学びを充実させていきたい。



生きものの観察・栽培活動



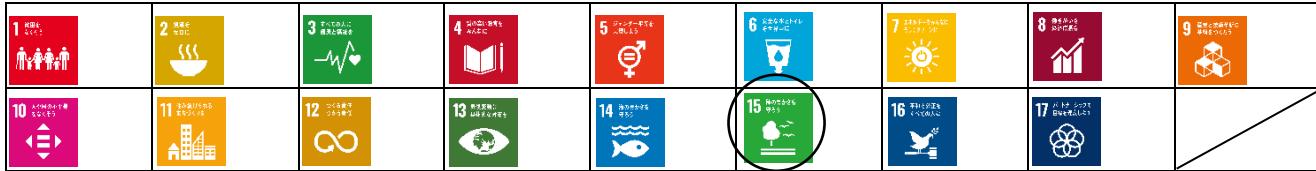
栽培委員会による栽培活動



給食委員会による  
SDGsの取り組み



学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	1年～4年（207人） 栽培委員会
活動名	植物をたくさん植えて、緑を増やそう。		
指導者	学内指導者： 1年・2・3年・4年担任		



※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

植物をたくさん植えることで、自然と地球環境を良くしてることを知る。

## 成果

- 子供たちが、植物の成長を気にするようになった。
- 春から夏終わりまでの植物の成長を通して、日頃から感じることできるようになった。
- 植物を大事にしようという意識をもたせることができた。

## 感想・課題等

- 自動水やり装置を導入したことで、水を絶やさず、つる系の植物を枯れることなく成長させることができた。
- 朝顔の花が、グリーンカーテンいっぱいに咲かせることができたので、子供たちにとっても成長を感じさせることができた。
- 植物の成長を通して、植物の成長する力を感じる子供たちが増えた。

△今年は、猛暑の影響で葉が枯れる時期が早かったり、実がなる量も少なかったりしたので、対応策を立てる必要があった。

ゴーヤ・きゅうり・朝顔・ひまわり・夏にとれる野菜・春に咲く花の球根を植えました。

4年生が、理科の学習でゴーヤの成長を観察しました。

1年生が、朝顔を植えて咲く花を観察しました。種もたくさんとれました。

2年生が、グリーンカーテンの前に、夏の野菜の種を植えて、栽培しました。



3年生が、ひまわりの種を植えて成長を観察しました。



栽培委員会が、春に向けて、花壇をきれいに整備して、春に咲く花の球根を植えました。



学校名	下小岩小学校	対象学年と人数	5・6年生 学校応援団
活動名	新しい校舎を華やかに		
指導者	学内指導者： 小暮 修（園芸委員会 担当） 学外支援者： 伊佐 厚子（学校応援団）		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

新しい校舎を花と緑で彩る

## 成果

- ・ウェルカムフラワーを作成。
- ・学年花壇、委員会花壇を作成。
- ・学校周辺植栽（バラ）を育てる体制をつくる。

## 感想・課題等

本校は令和7年度4月1日から新しい校舎への移転となった。しかし、校舎は完成していたが、校庭は9月から使用開始となったため、植物を栽培する花壇等が使えない状況でスタートした。

そこで、まずは新しい校舎に来校した方々に見てもらえるように「ウェルカムフラワー」を園芸委員会の5・6年児童が中心となって計画を立て、作成した。お花を植える鉢植えも無かったため、グリーンプランの予算で購入した。

さらに、毎年5月に開催している「フラワーロードまつり」の花壇コンクールにも、園芸委員会の児童が計画を立て、花壇に出品した。

2学期が始まり、ようやく校庭や花壇が完成した。新しい校舎の花壇であったため、各学年も2学期からの計画となった。また、園芸委員会も委員会用の花壇を中心に新たに計画を立て、これからさらに春に向けて花を植えることとなっている。

本校は、もともと旧下小岩第二小学校の敷地に移転し新しい校舎となったが、旧下小岩第二小学校の敷地外周にはきれいなバラの花が咲き、「江戸川百景 NO, 89」にも選出されていた。そのような背景から、新しい校舎開校にあたって、学校の外周にはたくさんのバラを植えていただいた。しかし、まだ花を咲かすまでには時間がかかり、さらに植えた苗も大変多くあるため、園芸委員会の児童では手が足りないとなった。

そこで、学校応援団の皆様にも協力を仰ぎ、バラを世話する体制を整えた。バラの栽培は1年中必要となるため、児童とともに多くの方々にも協力していただけるようにしていきたい。今後も、さらに新しい校舎が多くの緑で彩ることができるように、より協力体制も強固にしていきたい。



ウェルカムフラワー



ウェルカムフラワー 作成風景



フラワーロード 花壇コンクール出展作品



旧下小岩第二小から持ってきたバラの苗と花



新校舎に新しく設置された看板



新しく植えたバラの苗



新しく植えた学年花壇



新しい花壇を世話する園芸委員会児童

学校名	上一色南小学校	対象学年と人数	1・2年生
活動名	上南花いっぱいプロジェクト		
指導者	学内指導者：1・2年担当教員 学外支援者：		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ・植物に対して、興味・関心を高める。
- ・学校花壇の整備に参加し、緑化運動の意識を高める。

## 成果 (見込み)

- ・冬の間も、学校一帯の緑あふれる環境を保つことができる。
- ・児童が、植物を大切にする意識を高めることができる。
- ・児童自ら花壇の整備に参加することで、植物を大切にしようとする意欲を高めることができる。

## 感想・課題等

- ・児童からは、活動前の段階で「花壇が寂しかったけど、花でいっぱいになるなんて嬉しい」「たくさんの植物が増えるから嬉しい」など前向きな意見が出てきた。今後も環境を整備し、学校が緑であふれるようにしていく。
- ・主に1・2年生しか活動に参加しないため、次年度以降も実施する場合は、全ての学年で行ったり、委員会活動に取り入れたりするなど、様々な活動を増やしていくようにする。
- ・身の回りの環境に対して児童の意識や興味を高めるだけではなく、学ぶ機会も多く設けられるようにしていく。
- ・冬季という1年間の中でも比較的緑が少なくなってしまう時期に、環境整備の目的で実施したが、春夏秋と活動内容を増やし、様々な角度から環境整備への意識を広げていけるようにする。

※12月から3月にかけての冬の間の活動がメインのため、写真はまだありません。

学校名	南小岩第二小学校	対象学年と人数	361名
活動名	観察池を活用しよう		
指導者	学内指導者：各担任 学外支援者：学校応援団		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 観察池の生き物や米の観察をすすんで行い、身近な自然とふれあい、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。
- 調べたいと思ったことを、様々な方法で調べていくことで、自分でできることは何かを考えていこうとする。

## 成果

- 観察池での稲作とバケツ稲での稲作を比較しながら観察できた。また、米を育てることで、食物を作る難しさを実感することができた。(SDGs 2)
- 鯉やメダカを観察することを通して、生き物を大切に育てようとする心情が高まった。(SDGs 14)
- 観察池の微生物を調べ、iPad を使って調べた微生物についてまとめる中で、小さな池の中に多くの生き物が存在していると感じることができた。(SDGs 4)

## 感想・課題等

### 【課題】

- 鯉用の池水の管理が難しく、夏の暑さや病気のため、全滅してしまった。
- 観察池の稲は、ネットをかぶせる時期が遅れ、スズメなどの被害にあってしまった。

### 【感想】

- 鯉用の池の次の活用方法を考えたい。
- 観察池の稲はたくさん育つ様子が見られてよかったです。少量だが収穫できてうれしかった。
- 藻や水草をつづいているメダカに关心をもち、積極的に観察をすることができた。



学校名	北小岩小学校		対象学年と人数	第5学年：53名					
活動名	ご飯モリモリ大作戦（総合的な学習の時間）								
指導者	学内指導者：石原弥久、雨宮恵 学外支援者：JA 鶴岡市東京事務所								
1 人権と人道	2 食と文化	○	3 環境と資源を守る	4 みんなで読む本	5 フィードバック	6 おしゃべり・お話し	7 おもてなし・おもてなしあげ	8 経済と社会	9 知識と技術
10 人権を尊重する	11 経済をつくる	○	12 つながる	○	13 みんなで育む	14 おもてなし	○	16 環境を守る	17 つながる

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 学校にある田んぼを活用し、米作りの難しさや喜びを実感する体験を通して、米作りに携わる人々の苦労や願いを知る。
- 自分たちの生活の身近にある米について幅広く知り、米のよさや大切さに気付く。
- 田んぼと自然環境の関わりに興味をもち、日本や世界が抱える環境問題や、それを解決するための方法を調べ、地球環境に関する理解を深める。

## 成果

- 田起こし、田植え、成長の観察、稲刈り、脱穀、糲摺り、精米、そして実際に食べるところまでの一連の米作りの作業を自分たちの力で行うことで、米作りは多くの手間がかかっていることを実感し、愛着や責任感をもって最後まで活動に参加することができた。
- JA鶴岡の農家さんから、米作りの実際の作業や自然環境についての現状を聞くことで、自らの課題をもつことができた。
- 地球を存続させるための持続可能な社会をつくるために、自分たちにできることについて話し合い、考えを深めることができた。
- 学習発表会では、「お米の大切さ」をテーマとし、全校児童や保護者に自分たちが学んできたことやできることを大勢の人に伝え、広めることができた。

## 感想・課題等

- 田んぼで稲を育てるという大掛かりな学習を、グリーンプラン推進校として活動できたことで、自然と人との関わりを深める学習が充実した環境の中で行うことができた。
- ▲グリーンプランの活動費があったため、必要な道具類やよい土をつくるための肥料等を十分に揃えられたが、校内の予算だけでは不十分な面もある。
- ▲担任だけでは田おこしや稲の管理など業務時間外での負担が多く、外部や校内での連携が必要なところがある。

# ご飯モリモリ大作戦

北小岩学校の先輩方から受け継いだ「きた小田んぼ」で1年間学び深めます！



令和7年度



田植え・稻刈り体験、米作りに関する調べ学習を総合の学習を通じて行いました。

作り手の努力や思い、自然を守るためにできることを考えました。また、SDGsと関連させた内容も学習しました。庄内米をくださったJA鶴岡青年部のみなさんをはじめとした沢山の方々に協力していただきました。米作りの1年間を通じて、感じたことから自分たちでもっと知りたいことを調べ、次の学習へと繋げていきます。

米（マイ） トラベル

「きた小田んぼ」で得た経験や調べたことから北小祭で学習発表をしました。「米マイトラベル」では、現代の米騒動や環境問題SDGsクイズを考え、未来のお米の在り方について発表しました。



学校名	江戸川区立松江第二中学校	対象学年と人数	全校生徒
活動名	エコキャップ運動 道路クリーンアッププロジェクト 花壇整備		
指導者	学内指導者： 内藤 卓 徳田 和樹 安藤 晃之助		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

### 【エコキャップ運動】

- ・ペットボトルキャップを回収し、再利用することでプラスチックごみの削減につなげる。

### 【道路グリーンアッププロジェクト】

- ・落ち葉を掃いて、街を綺麗にし、住みやすい環境を整える。

### 【花壇整備】

- ・学校の緑を増やし、緑化活動への意識を高める。

## 成果

- ・エコキャップ運動では合計 160.25kg と前年度に引き続き 3R に貢献した。
- ・道路クリーンアッププロジェクトでは全学年の生徒が参加し、道路の美化をおこなった。
- ・花壇整備では PTA の方々や園芸ボランティア部と共に学校の花壇整備や設置を行い、学校の緑化を進めた。

## 感想・課題等

### 【エコキャップ運動】

- ・SDGs に関心を持ってもらう良い機会となった。
- ・エコキャップを再利用することができるのでとても良い活動となった。
- ・キャップを寄付するためのビニール袋をエコバックにするなどの対策をしていきたい。

### 【道路クリーンアッププロジェクト】

- ・協力して素早く、広範囲の清掃を行うことができたので良かった。
- ・朝の 7 時 45 分から行い、規則正しい生活を行う良いきっかけとなったので良かった。
- ・落ち葉を入れるビニール袋があり、問題になっているので、出来るだけビニール袋を使用しないような方法を検討したい。

### 【花壇設置】

- ・花壇整備で、地域の学校応援団の方々、園芸ボランティア部の皆さんとお花の整備や新しい花壇の設置を行うことができたので、このような地域の方々と協力して行う活動を行えるようにしていきたい。
- ・今後も水やりの分担をし、手入れをしっかりと行っていく。昼休みの校庭開放の時に花壇が荒れてしまうことがあるので、全校集会で注意喚起をするなどといった対策を検討していきたい。



学校名	松江第五中学校	対象学年と人数	全学年 40 人
活動名	ウェルカムガーデン植栽		
指導者	学内指導者：田屋 宏将 富永 真由 吉川 瑠人		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

### 【ウェルカムガーデン】

来校する生徒や保護者、地域の皆さんをお花で気持ちよく学校に来てもらう。

## 成果

- ・生徒会の呼びかけでボランティアが集まり、花の種類や色合いを考えて植栽活動を行った。
- ・植栽後、昼休みに水やりを行い、花が長持ちした。
- ・学校への訪問者や通りがかった地域の人が足をとめて花を見てくれていた。

## 感想・課題等

- ・年に2回の植栽活動を行っている。生徒会のメンバーが呼びかけ毎回ボランティアが集まっている。各学年から多くの生徒が参加した。花の種類はおおよそ8種類程度選び購入している。集まった生徒は雑草の処理など力のいる作業も黙々と行っていた。来校者や地域の方を意識し、色合いや背の高さを考え、どのように植えるときれいに見えるか相談しながら植えている。きれいに整えられた花壇を見て満足していた。自分たちの活動が人や地域に貢献できたという達成感を得ることができた。
- ・生徒会が献身的に水やりをすることで花の状態が保たれた。責任をもって管理し、景観を長続きさせようという気持ちを育てられた。猛暑で屋外での長時間の作業が難しいこと、花が枯れやすいという昨年度からの反省を活かし、今年度も11月下旬に植栽を行った。12月上旬の面談での保護者や地域の来校者に生徒の活動を広めることができた。
- ・3月の卒業式前にも植栽を予定している。
- ・環境学習推進のモデル校として、生徒会の活動を中心に多くの生徒たちが環境について考え自ら関わっていけるように、活動を計画し実践していきたい。来年度は今年度に行うことができなかった肥料や種子の導入などから生徒の自然愛護への意識を高めたい。また、植栽をきっかけにその他の環境問題改善にも目をむけられるよう生徒の育成を行っていきたい。

【植栽の様子】



【植栽後の様子】



学校名	南葛西中学校		対象学年と人数	全学年から希望者 27 名													
活動名	みんなの花壇																
指導者	学内指導者：山尾麻衣、皆川裕希、笠原毅陽、阿部健嗣 学外支援者：なし																
1 	<input type="radio"/>	2 	<input type="radio"/>	3 	<input type="radio"/>	4 	<input type="radio"/>	5 	<input type="radio"/>	6 	<input type="radio"/>	7 	<input type="radio"/>	8 	<input type="radio"/>	9 	<input type="radio"/>
10 	<input type="radio"/>	11 	<input type="radio"/>	12 	<input type="radio"/>	13 	<input type="radio"/>	14 	<input type="radio"/>	15 	<input type="radio"/>	16 	<input type="radio"/>	17 	<input type="radio"/>		

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- ボランティア精神を大切にしながら、生徒の健全育成を図り、社会貢献の精神を培う。
- 花を植えて、「みんなの花壇」をつくることで、緑化活動を行う。
- きゅうりや小松菜の栽培を通して、食についてなど SDGs について学びながら、自分たちができる持続可能な社会への貢献する意識を養う。

## 成果

- 昨年度よりは少ない人数で始めることになったが、生徒の昇降口付近にプランターを置き、登下校時間や休み時間等に観察・水やりを行い生徒の興味を高めることができた。
- 参加生徒は一昨年購入したプランターの土と敷石を入れ替え、花の苗ときゅうりの苗を植えた。生物育成に興味を持ちながら、学校からできる SDGs への取り組みを学ぶことができた。
- 育てていくうちに、きゅうりの果実や、小松菜の成長していくようすを観察でき、持続可能な農業についても学ぶことができた。
- 花の成長の移り変わりや、色の変化などを楽しむことができた。自分で育てたものを味わったり、押し花にしたりすることで生徒は達成感や充実感を味わうことができた。

## 感想・課題等

- ボランティア参加者をきっかけに、他の生徒にも興味を持ってもらうことで、SDGs への関心を高めることができた。地球温暖化という身近な問題に対して中学校の理科、技術・家庭科などの日々の授業で学んだことを活かして取り組めたことが良かった。
- 今年度は、外装工事等の兼ね合いで、夏休み中の活動を行うことをせず、準備→実行→片付けまでの流れを二度行うことで、年間の活動を行うことができた。
- 参加者分のきゅうりをつくることができなかった。
- 地域の特産品である、小松菜ができるところを参加者以外にも毎日見てもらうことができた。
- 地域のボランティアとの協力も考えたが、活動時間の違いなどにより断念せざるを得なかった。

きゅうりの植え付けと収穫の様子



生徒が調理した収穫したきゅうり



学校名	江戸川区立瑞江第二中学校	対象学年と人数	全学年 60名程度
活動名	花壇ボランティア		
指導者	学内指導者：生徒会担当教員		



※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

学校を華やかにし、気持ちよく生活をする。  
保護者や地域の方々が、気持ちよく来校してもらえるようにする。

## 成果

- ・生徒会の呼びかけでボランティアを募集し、花の苗を植えた。
- ・生徒会本部役員を中心に水やりをして、きれいな花壇を保つことができた。
- ・卒業式や入学式を華やかにする一役を担うことができた。
- ・地域の方や保護者などが来校した際、「花壇がきれい。」などとほめてくださった。

## 感想・課題等

- ・年に2回の花壇ボランティアを実施していて、参加者が年々、増えてきている。ボランティアへの意識が高まっているように感じる。
- ・花を自分たちの手で植えることで、愛着をもつことができたようである。登下校などで花壇の横を通る生徒が、植えてある花の話題で盛り上がっている様子が印象的だった。



花の苗を一つずつ丁寧に植えています。



花壇の中で種類や色に合わせて配置して、植えています。



大きいハイビスカスが印象的に咲いていました。

学校名	春江中学校		対象学年と人数	全学年 ボランティア 40名程度
活動名	Smile Garden Project			
指導者	学内指導者：生徒会担当 佐藤 光正、猪又 正己 学外支援者：公益財団法人 えどがわ環境財団			
1 	2 	3 	4 	5 
6 	7 	8 	9 	
10 	11 	12 	13 	14 
15 	16 	17 		

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

学校の緑化運動を行う。その緑化運動を生徒会主体で行い、「Smile Garden Project(SGP)」と称し、学校に花や緑を増やし、学校全体で環境学習に興味関心を持たせる。

## 成果

えどがわ環境財団の指導のもと、校庭の玄関にウエルカムガーデンを作りました。生徒にボランティアを募り、花の苗や種を植える作業を行いました。校庭の花壇には、新たに花を植えるのが難しかったので、プランターに土をはり、春と秋に植え付けを行いました。

春は苗から花を植えたので、すぐに玄関を花で彩ることができました。えどがわ環境財団さんに花の選定もお願いして、花が咲いている期間が長い花を選んでもらいました。そのため春から秋口まで、きれいな花がたくさん咲いていました。

秋は土作りから始め、種だんごを作り、みんなで種を植える作業をしました。10月に種を植え、3月から4月に花が咲く予定です。種を植えてから一週間ほどで、芽が出てきていて、みんな、春に花が咲くのを楽しみに待っています。

その様子を生徒会新聞で伝え、生徒みんなに緑化運動に興味をもってもらいました。

## 感想・課題等

### 感想

- ボランティアには多くの生徒が参加してくれました。普段中々土いじりをすることが少ないので、とても新鮮でみんな楽しそうに作業をしていました。自分が植えた苗や花の成長が楽しみで、積極的に水やりをし、お世話をしてくれる生徒がたくさんいました。
- 花を植え付ける際に、花の知識が全くなかったので、えどがわ環境財団さんに支援して頂き、大変有難かったです。花の選定や、当日の作業の指導、花の育て方の教授などをして頂きました。

### 課題

- 今年度から始めた取り組みなので、どのように継続していくかが課題です。今後も生徒会で引き継いで活動を行い、えどがわ環境財団さんにも支援を頂いていきたいと考えています。

## 【Smile Garden Project 春】



・環境財団さんにお手伝いしてもらいました。



・自分たちで苗を植えました。



・玄関を花できれいにすることができます。



・みんな楽しく作業できました。

## 【Smile Garden Project 秋】



・秋は土作りから始めました。



・種だんごの作り方を教えてもらいました。



学校名	江戸川区立小岩第五中学校		対象学年と人数	全学年有志30名
活動名	花いっぱい運動			
指導者	学内指導者：ボランティア部教員・生徒会指導教員・給食委員会指導教員・栄養士 学外支援者：			
1 	2 	3 	4 	5 
6 	7 	8 	9 	
10 	11 	12 	13 	14 
15 	16 	17 		

※該当する SDGs の項目に「○」を記入

## 目標

- 校内の花壇の整備を通して、自然を慈しみ大切にしようとする心を育てる。

## 成果

- ボランティア部員を中心に、花の色合いや高さを考えて植栽活動を行った。
- ボランティア部員を中心に、水やりを行い、植物を大切に育てる心情につながった。
- 近隣の公園や商店街の花壇の植え替えも行い、地域にも貢献した。

## 感想・課題等

### 【感想】

- 放課後、ボランティア部員が苗の植え替えや花壇の手入れをしていると、部員以外の生徒も興味をもって手伝ってくれ、植物に関心をもったり大切にしようという心情を育むきっかけとなった。

### 【課題】

- 植物を植える時期や花の種類を生徒に考えさせたい。
- どの季節でも花が楽しめるよう植えるタイミングや種類、手入れの方法を考えていく。

### 【その他の取り組み】

- 文化祭で生徒会が SDGs に関する動画を作成したり、クイズを出したりして全校生徒が興味をもつききっかけを作っている。
- 給食委員会の活動として年2回残食〇の週間を設け、食べ残しをしないきっかけをつくっている。

【 近隣の商店街の植栽 】



【 近隣の公園の植栽 】



学校名	船堀幼稚園				対象学年と人数	全園児 57名					
活動名	ふなぼりーとの豊かな心を育む～身近な自然との関わりから～										
指導者	学内指導者：園長 東 美和 他全教職員 学外支援者：学校応援団（福井直美、小澤明子、藤本京子）										
1 人権を尊重する 人権を尊重する	2 食べ物 食べ物	3 経済成長 経済成長	4 知識を広げる 知識を広げる	5 男女平等 男女平等	6 エネルギーを効率的に使う エネルギーを効率的に使う	7 環境を守る 環境を守る	8 経済成長 経済成長	9 経済成長 経済成長			
10 人権を尊重する 人権を尊重する	11 まちづくり まちづくり	12 循環する 循環する	13 経済成長 経済成長	14 海洋資源を守る 海洋資源を守る	15 環境を守る 環境を守る	16 経済成長 経済成長	17 経済成長 経済成長				

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

## 目標

○幼児が身近な自然との関わりを通して、自然への興味や関心を深め、知的好奇心、探求心、思考力を育み、豊かな心を培う。

## 成果

園では年間を通して、計画的に自然環境を整え、幼児が遊びの中で自然との関わりを楽しめる場を設定している。

### 【4・5歳児 野菜の栽培】

プランターにナスやピーマン、畑にはサツマイモの苗を植えた。水やりをしながら野菜の生長に気付き「黄色い花が咲いたよ！」「ナスが大きくなってる」「ツルが伸びた！」と自然の変化に興味をもつ姿が見られた。野菜は自分たちで収穫し、園内で調理して会食した。野菜が苦手な幼児も、自分たちで育てた野菜を味わう楽しさを味わえた。

### 【4歳児 色水遊び】

7月～9月頃保育室前でオシロイバナやキバナコスモスの花がらを摘み、すり鉢に花と水を入れて、すり潰すと、ピンクやオレンジの色水ができる。「きれいなジュースができた！」「もっと作ろう」と喜ぶ姿が見られた。色水遊びに繰り返し取り組む中で、花がらの量や水の量を調節することで色の濃淡ができることに気付いた。

### 【5歳児 アイの栽培・アイ染め体験】

5月上旬、アイの種まきをした。幼児は小さい種に驚き、大事にまいて水やりをして育てた。生長して葉が増えてくると1枚ずつ収穫し、カゴに入れて干した。

10月末、学校応援団の方が来園し、園内で葉を煮詰めて染液を作成した。染液を煮ている様子を実際に見た子どもたちは、染液の色や匂いに驚いた。ハンカチ染めは5分染液につけ、5分空気にさらすことを3回繰り返す。初めは緑色だったハンカチが3回空気にさらすと藍色に変化した。ハンカチの色が変化したことに気付き、「すごい！」と面白がっている。最後に水洗いして完成。きれいに染まったハンカチを見て、喜ぶ姿が見られた。

## 感想・課題等

○家庭生活の中で自然と関わりが乏しく、入園してから初めて自然と関わっている幼児もいる。幼児の身近にさまざまな自然環境があり、直接体験ができる場があることで、幼児が発見を楽しんだり、さらに工夫したりすることにつながる。自然と触れ合う遊びの中での思考力、創造力の芽は今後の学びへつながる。

○アイ染めは、幼児が学校応援団の方から直接お話を聞き、一緒に活動することを楽しめた。園を支えてくださるいろいろな方と一緒に活動することで新しいことを学ぶ楽しさを味わえる貴重な体験である。

○幼児の活動を計画的に進めるためには、栽培時期が大切になる。また夏の暑さへの対策などの配慮が必要である。今後も幼児が時期に応じて様々な経験ができるよう自然環境を整え、指導計画のさらなる見直しに取り組む。



サツマイモの苗を  
植えたよ

4歳児 野菜の栽培

おおきくなあれ



ピーマンどこかな？



いっぱい  
獲れた！



お花を摘んで…

4歳児 色水遊び

色水を作ろう！



きれいなジュースの  
できあがり！



水やりは  
たんくろうの水を利用

5歳児 アイの栽培・アイ染め体験

おおきくなあれ！



アイの葉を1枚ずつ  
ていねいに収穫



学校応援団の方がアイを  
煮出してくれました

染液につけた後は  
風にあてて・・・



きれいなハンカチが  
できました！





---

発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

---

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>

---